

学校関係者評価報告書

愛媛県立大洲高等学校

学校番号(30)

評価実施日		令和6年2月19日(月)		
委員	氏名	所属等	氏名	所属等
	松田 智子	学校評議員	山本 憲矢	学校評議員
	中川 義博	学校評議員	村上 祐子	P T A顧問
	濱田 耕造	学校評議員	林田美智代	P T A副会長
	二宮 務	学校評議員	中岡 靖典	学校関係者

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>1 全般</p> <p>学校評価アンケート全体として、昨年度と比較すると平均的に見て肯定的な評価が低下している。ただ、昨年度はここ数年で最も肯定的な評価が高い年度であり、一昨年度と比較すると肯定的な評価が高く、概ね平均値以上であった。校長先生をはじめ教職員の方々のご尽力の賜物と、敬意を表したい。ただし、全体的な懸念点としては、保護者や生徒の評価と教職員の評価の間で、乖離が見られる項目がいくらかある。</p> <p>2 学習指導について</p> <p>昨年度と比較すると、生徒アンケートでは授業の進度、分かりやすい授業、教え方の工夫といった項目で、肯定的な評価が向上しており、好ましい傾向である。教職員アンケートの結果でも、昨年度よりも現職教育に対して肯定的な評価が向上しているので、今後も教科指導力の向上に努めてもらいたい。また、生徒の学力差も大きくなっていると思う。現在実施されている習熟度別講座編成を継続するなど、学習意欲の喚起や思考力・判断力・表現力の向上などをお願いしたい。</p> <p>3 進路指導について</p> <p>総合型選抜、学校推薦型選抜では、一定の成果をあげている。伝統校としての資質にあふれる生徒が多いからだと感じている。大学入試の方法も年々変化しているので、学力だけでなく多方面から生徒の特性を伸ばしてもらいたい。ただ、難関大学の合格者が減っているようである。私立大学を含めた難関大学にチャレンジできる生徒の育成にも努めてもらいたい。また、保護者も含めて大学卒業後の就職までも見据えた進路指導に努めてもらいたい。</p>	<p>・生徒たちにとって、コロナ禍による制約の緩和によって、昨年度よりも学校行事などが実現でき、充実した学校生活を送ることができたと考えている。保護者や生徒の評価と教職員の評価との間の乖離については、情報発信に努めるとともに、面接や面談の機会に丁寧な説明を通して、相互の信頼関係の醸成に努めたい。</p> <p>・生徒の学力差については、習熟度別講座編成など、生徒の実情に応じた学習指導を通じて、基礎・基本の定着とともに、意欲のある上位生徒を伸ばす指導に努めたい。現在、ICT機器を授業や課題の提出に活用している。研修を通じて、教員のスキルアップを図り、教科指導力の向上を図りたい。</p> <p>・総合型選抜、学校推薦型選抜では一定の成果をあげたと考えている。一方で、難関大学への進学については苦戦している。日々の授業を大切にすることはもちろんのこと、習熟度に応じた講座編成や模試、補習などを効果的に行うことによって、個々の生徒に応じたきめ細かな指導ができるように工夫したい。</p>

3 生徒指導について

教職員アンケートでは昨年度と比較すると肯定的な評価が高くなっている。その一方で、生徒アンケートや保護者アンケートでは肯定的評価の向上は見られず、教職員のそれとの間に乖離がある。生徒指導の基本は生徒との信頼関係が一番である。風通しのよい関係を築いてもらいたい。そのことがいじめや人間関係の悩みなどの解決にもつながる。また、自転車通学時の事故も何件かあったようである。ヘルメットの着用を徹底するとともに、交通安全に対する意識を高め、生徒の命を守ってもらいたい。校則についても柔軟に変更するなどの対応が求められる。

4 特別活動について

これまでのコロナ禍による制限もあり、生徒はあまり経験がない中での学校行事だったと思うが、学校評価アンケートでは保護者をはじめ肯定的な評価が高く、一丸となって取り組んでいる様子が伺える。ただ、仮装行列の迫力が以前と比較してこここのところ残念な状況である。今後に期待したい。また、部活動は体育館前の懸垂幕の数が例年になく多く見られ、よい成績を残している部が多いように感じた。恒例の定期演奏会もよかったので、さらに頑張ってもらいたい。

4 教育環境について

生徒アンケート、保護者アンケート共に肯定的な評価が昨年度と比べてやや低下している。今後とも、できる対策をして改善してほしい。

5 情報公開について

ホームページが頻繁に更新され、充実した内容となっている。日常の何気ない風景も学校に足を運ぶことが少ない保護者にとってありがたいことではないだろうか。進路情報も視覚に訴えた力強いものとなっている。ただ、保護者との連携に関して、教職員アンケートでは昨年度と比較して肯定的な評価が高いが、保護者、生徒アンケートとの乖離が見られる。今後も積極的な情報公開に努めてもらいたい。

・保護者の協力を得ながら、生徒の主体性を伸ばさせると同時に、生徒が自主的に規範意識を向上させることができるよう教職員がサポートしたい。

・交通委員会の活動や交通講話を充実させ、引き続き、ヘルメット着用の意義と交通ルールを遵守することの大切さを繰り返すと同時に、通学路の危険箇所などについて事前指導を徹底したい。

・昨年度よりも従来に近い形で藤樹祭を行うことができた。コロナ禍による制限も緩和され、生徒が生き生きと活動できる環境を整えると同時に、保護者や地域の方々にも気軽に楽しんでいただける学校行事になるよう、教職員がサポートしたい。

・日々の部活動において、適切な休養日を設定し、安全に留意しながら、今後も健全な活動に努めたい。

・施設・設備の改善は、予算の制約もあり、すぐには対応しきれないところがある。来年度は第2教棟の長寿命化改修も控えており、生徒には迷惑をかけると思うが整備を進めたい。

・ホームページの更新は平均して1週間に5日程度である。ホームページの重要性について共通理解を深め、毎日更新できるようにしたい。

6 特色ある学校づくりについて

保護者、生徒アンケートでは特色ある学校づくりに関して、いずれも肯定的評価が8割弱であり、昨年度と比較して肯定的な評価が若干低下している。学校満足度を高める学校づくりを推進する上で、地域の学校として大洲市などと連携しながら、地域や中学校から大洲高校がどのように見えているのか、大洲高校の現在地をしっかりと把握してもらいたい。また、スクールミッション、スクールポリシーともに分かりやすいものとなっているので、積極的に情報発信してもらいたい。

7 学校経営に関して

教職員アンケートの学校経営では、校務分掌の構成において、昨年度と比較して肯定的な評価が向上している。今後とも負担の分散など、先生方の協働を進めてもらいたい。また、教育目標について、全教職員が実状や実態に合っていると捉えている。その一方で保護者に十分に伝わっているという点においては、昨年度と比較して肯定的な評価が低下している。情報提供など、更に工夫してもらいたい。教職員アンケートによると、職員室や休養室の改善が進んでいるようであるが、職場環境において改善を求める声も見られる。改善策を検討していただきたい。

8 その他

大洲農業高校との統合については、地域も大きな関心を持っている。情報発信に努めてもらいたい。

・「総合的な探究の時間」、「課題研究」において、大洲市や関係団体と連携して地域の課題の解決に向けた取組を行っている。研究成果を発信する機会を多くしたい。また、それ以外でも各方面から協働での取組について、声を掛けてもらっている。生徒の負担にならない範囲で協力し、地域に貢献できる人材育成に努めたい。

・校務分掌については、教職員個々の希望や事情を踏まえ、適材適所になるようにしていきたい。

・「健康と職場環境に関するアンケート」の結果を踏まえて、実現可能なものについては改善を図りたい。また、教職員間の挨拶の励行、会話の促進などを管理職が呼び掛け、良好な人間関係づくりに努めたい。

・大洲高校開設準備委員会で、学校関係者、行政関係者、地域関係者の方々に委員として参加してもらい、進捗状況を報告するとともに、方向性について御意見をいただいている。来年度はより多くの面で準備が進んでいくと思う。県教育委員会とも連携しながら情報発信に努めたい。